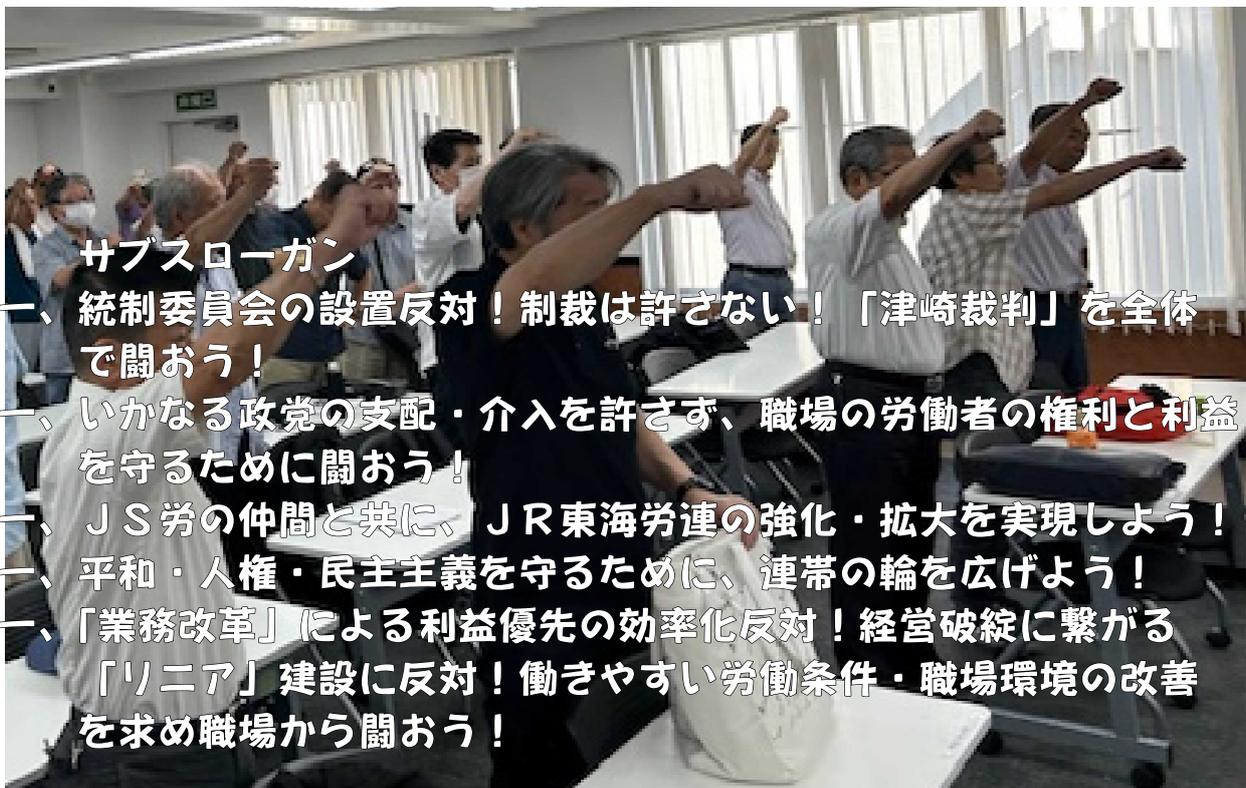




第30回地本大会開催！

ー メインスローガン ー

**東海の地に労働運動の灯を赤々と燃やし続けよう！
一切の組織破壊攻撃を許さず、全ての労働者と連帯
して、平和・人権・民主主義を守り抜き、誰もが平和で
安心して働き、暮らせる社会の実現に向けて奮闘
しよう！**



- サブスローガン
- 一、統制委員会の設置反対！制裁は許さない！「津崎裁判」を全体で闘おう！
 - 一、いかなる政党の支配・介入を許さず、職場の労働者の権利と利益を守るために闘おう！
 - 一、JS労の仲間と共に、JR東海労連の強化・拡大を実現しよう！
 - 一、平和・人権・民主主義を守るために、連帯の輪を広げよう！
 - 一、「業務改革」による利益優先の効率化反対！経営破綻に繋がる「リニア」建設に反対！働きやすい労働条件・職場環境の改善を求め職場から闘おう！

※裏面に大会宣言添付

大会宣言 (案)

本日、私たちは第30回定期地本大会を開催して、あらゆる組織破壊攻撃を跳ね返し、仲間と共に切り拓いてきた地平を確認した。そしてこれからも、職場の労働者の権利と利益を守るために闘うことを意思統一した。承認されたメインスローガンは、「東海の地に労働運動の灯を燃やし続けよう！一切の組織破壊攻撃を許さず、全ての労働者と連帯して、平和・人権・民主主義を守り抜き、誰もが平和で安心して働き、暮らせる社会の実現に向けて奮闘しよう！」である。

1991年8月11日、私たちは御用組合への道を拒否し、東海の地から労働運動の灯を消さないためにJR東海労を結成した。1993年の夏には、会社と国家権力が一体となった大弾圧が仕掛けられた。また2000年12月には、革マル派という党派から「打倒宣言」を発せられた。私たちはJR総連各単組の仲間と共に闘い、御用組合員化と組織破壊策動を許さず、労働運動の灯を全国に残してきたと思っていた。ところが現在、私たちは、信じていた仲間から「組織破壊者」のレッテルを貼られ、制裁の対象にされているのである。

「私たちはこれからも、東海の地に労働運動の灯を消さないために、新しい場所に、新しい労働組合を結成して、東海労とJR総連の運動と組織を残し発展させていこうとしているんです。これのどこがいけないんですか？私にはわかりません。」という近畿地協定期委員会での渡邊委員の問いに、JR総連は一切回答できなかった。2023年9月8日付で作成した『緊急声明』、「JRサービック労働組合を断じて認めるわけにはいかない。」「今回の事態は、JR東海労出向組合員数名がJR東海労中央執行委員会決定と再三にわたる組織指導に従わず、二重加盟した上で、JR東海労に組織内組織を立ち上げたものである。このような事態は明らかに組織破壊であり、決して認められるものではない。」これがJR総連指導部の本音なのである。要するに、JR総連は、JS労結成を「許さない、認めない、会社に信用してもらえない」と言っているのである。だから11月26日に開催したJR総連近畿地協定期委員会での承認事項を捻じ曲げ、嘘をつき、JR総連各単組の組合員を騙し、私たちJR東海労を組織破壊者と断定して、言う事を聞かないJR東海労組合員を除名するために統制委員会を設置したのである。

自称「労働者の党」を名乗るM組という党派に支配・介入されて、逆らえないJR総連指導部と、それに騙されているJR総連傘下各単組の指導部は、「自己崩壊」と言われた大量脱退の悲劇を何ら教訓化することなく、今また同じ過ちを繰り返そうとしている。私たちは、「自己崩壊」の道を拒否する。私たちは、いかなる政党からの支配・介入を許さない。JR東海労の未来は、私たちJR東海労が、JR東海労らしい運動で切り拓いていく。私たちはこれからも、嘘を許さず、偽善を許さず、真実を訴えていく。おかしいことに対しては「おかしい」とはっきり声を上げて行動する。それがJR東海労の原点である。そして、戦争をしない、侵略に加担しない、平和な未来を子や孫たちに残していくために、家族と仲間と身体を大切にして更に奮闘する。以上宣言する。

2024年7月7日 JR東海労働組合新幹線関西地方本部第30回定期地本大会